

取組案4 未来を生き抜く力の養成

1 内容

困難な時代にあっても、夢と志をもって未来を切り開いていくことのできる人材育成が極めて重要であることから、震災体験を今後の教育活動に生かすことで、子ども達に、命の大切さや他人・地域との関係の重要性を気づかせるとともに、主体的に物事を考え、意欲的に取り組む姿勢と時代に即した必要な知識等を育み、未来を生き抜く力を着実に養成するもの。

2 具体的取組

【県教育委員会が直接取り組むべきもの】

- ① 指導主事を学校に派遣して、学校の学力向上の取組を強力に指導する。
- ② 学校の志教育推進計画の策定と、その効果的展開を支援する。
- ③ 学校と協働して子ども達を育てる地域のリーダーを養成する。
- ④ 学校が効率的・効果的に地域と連携して活動できるよう、協力事業所等を「みやぎ教育応援団」として認証・登録し、データ整備する。
- ⑤ 協働教育プラットフォーム、産業人材育成プラットフォーム（県経済商工観光部所管）、キャリア教育コーディネータ、キャリアアドバイザー等の有機的な連携により、学校と家庭・地域・企業等との「つなぐ」システムづくりを強化する。

【(県教育委員会の支援等により)市町村教育委員会が取り組むべきもの】

- ① 学校と家庭・地域等が密接に結びつくよう関係機関等との連絡調整を行う。
- ② 体験活動ひろばや放課後子ども教室を開設する。
- ③ 学校と家庭・地域が協働して子どもを育てる活動を展開又は支援する。

【(県・市町村教育委員会の支援等により)学校が取り組むべきもの】

- ① 学校の状況に応じて目標を定め、必要な基礎基本の学力の確実な定着を推進する。
- ② 家庭・地域・企業と共同し、適切な役割分担の下、地域の人材や行事等を活用した効果的・専門的な教育課程の編成や教育活動計画を策定し、実践する。
- ③ 震災の経験を生かした地域貢献教育・社会貢献教育等を児童生徒の発達段階に応じて展開することで、児童生徒に個と社会を意識させ、社会性やコミュニケーション能力を育む。
- ④ 地域の一員として、学区内外の各種の行事・取組に積極的に参画する。

【(県・市町村教育委員会及び学校の支援等により)家庭・地域等が取り組むべきもの】

- ① 生活習慣の改善・家庭学習環境の整備に努める。
- ② 学校行事・地域行事への双方向の参加に努める。
- ③ 多様な体験学習機会の提供に努める。
- ④ 学校運営に関心を持ち、学校の教育課程への提案等を行う。

3 問題意識

- 志教育などが真に効果を生み、教育活動として定着するためには、学校の教育内容と社会との関係性を児童生徒が理解することが不可欠。
- 社会との関係性の理解等には、学校と家庭・地域等との「つなぐ」システムづくりが重要。
- 今後、このシステムづくりや持続的・自己発展的な連携強化に向けて、どのような仕掛けが必要なのか検討が必要。

